

産学連携事例紹介 和歌山の特徴を生かした、地産地消の住宅デザイン 「きの家」

○米田 則篤 (和歌山大学 産学連携イノベーションセンター URA 室)

1. はじめに

和歌山大学 産学連携イノベーションセンターでは、地域の産業振興、産業創成につながる本学の研究シーズを積極的に支援し、産学官の連携研究プロジェクトとなるよう日々コーディネート活動を行なっている。

今回は地元の注文住宅を設計施工から販売している「紀の国住宅」との受託研究で行なった、和歌山の特徴を生かした、地産地消の住宅デザイン「きの家」の取り組みを紹介する。

2. 概要

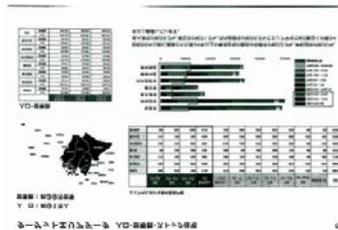
紀の国住宅株式会社（和歌山県和歌山市餌差町、代表取締役 林 博文）は、昭和 52 年に設立された和歌山県を中心に住宅販売する「地域密着型」のハウスメーカーで、着工戸数は和歌山で最も多い。「快適で安全な住環境」を考えた各種モデルハウスや、顧客の要望（家族構成、ライフスタイル、予算、敷地、デザインや機能面など）に応じた「自由設計の注文住宅」の設計施工を行なっている。全国一律な住宅を作っているハウスメーカーとの違いを持った住宅を設計販売したいと、和歌山大学にご相談にこられた。

色々なお話を伺っていく中で、断熱や省エネなどの機能の研究開発に留まらず、和歌山の特徴を持つ素材や間取りに工夫した、住まいの設計を共同で行っていききたいというご要望に応じて、システム工学部 環境デザインメジャーの高砂 正弘教授をマッチングしてまずは「学術指導」という形で、ブレインストーミングを行い、最終的に「受託研究」という形で、和歌山の特徴を生かした、地産地消の住宅デザイン「きの家」のモデルハウス開発を行うことになった。また要望として「グッドデザイン賞」に応募できるような独創的な設計を決められた予算内で行うというチャレンジングな目標を設定した。

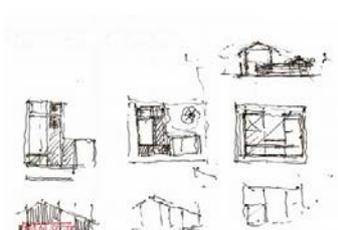
まず地域の顧客層の要望（予算、敷地面積、デザインや機能面）の洗い出しと、紀の国住宅の設計部よりいくつかのデザイン素案を出してもらいながら要件の再整理を行っていった。



展示場レイアウト図



展示場エリアデータ



スケッチ



計画案外観パース



計画案内観パース



平面図

研究当初予定地は、当初泉北市にある総合住宅展示場の一角にモデルハウスとして建築する事として、顧客層の絞込み、敷地などの条件にあったプラン作りを行っていたが、途中で住宅展示場の出展計画が見直され、現在の紀の国住宅の専用住宅展示場である「インター展示場」に変更になり再度諸条件（敷地、デザイン、素材）などの見直しを行い設計を進めていった。

日本の民家や農家で古くから使われている土間や広間などの構成要素を再構成し、シンプルで機能的なデザインにまとめ、様々な購入者のニーズに応えられるように設計。各室と庭が一体で、さらに紀州（和歌山県）産材（外装、外壁、内壁、構造材）にこだわった、地域に根ざした民家のように長く使い続けられる和歌山の住宅のスタンダードを目指した設計とした。



完成間際に台風上陸した影響や、現場での施工のやり直しなどがあったが、2018年グッドデザイン賞に無事応募ができ、結果「グッドデザイン賞 ベスト100」受賞と「私が選んだ一品 審査委員セレクション」にも選出された。



審査委員の評価

土間や広間、離れなど、古くから日本の住まいにある要素を切妻型の大屋根の下に配置し、屋根の下に多様な空間を生み出している。それぞれの空間は緩やかに繋がりをもち、外部に開かれた住宅となっている。シンプルでありながら、四季折々の豊かな暮らしが想起される、優れた住宅である。地場ハウスメーカーの強みを生かし、地元産材を積極的に用いた点も評価したい。地元大学とも協働しており、高いレベルでデザインがまとめられている。丁寧かつ真剣に「紀の国住宅」としてあるべき姿を模索されたであろうことが窺える。佇まいも美しく、このようなプロジェクトが模範となり、全国各地に良質な住宅が増えていくことを期待してやまない。

担当審査委員 | 仲 俊治 小見 康夫 手塚 由比 栃澤 麻利

3. きずきと課題

今回のような企業側の環境に左右される（住宅展示場に建設する住宅）で行う研究では企業側の事情で、条件が変更になったり途中で中止になる場合も想定される。今回は住宅展示場の変更や建築スペースの変更など何度か研究が中断・条件が変更することがあったが、事前に変更があった場合のことを想定して契約内容を考慮、条件変更の際に都度企業側と良く協議を行うことで、中断や条件変更による研究期間の延長はあったものの、無事最後までやり遂げることが出来た。いい意味でも悪い意味でも「産学連携」というのは、お互いに連携しながら進めるものだというを痛感した。

【謝辞】

本研究事例にご協力いただいた紀の国住宅株式会社 常務取締役 林 裕介氏、設計部部长 尾崎 傑氏、和歌山大学 高砂 正弘氏、田辺弘幸氏、公益財団法人日本デザイン振興会に深く感謝いたします。